



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等はこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



屋久島林業の未来を託し地杉苗木育苗検討会

(4月25日～26日)

森林の多面的機能の発揮のためには、土台となる森林生態系の健全性と活力の維持があり、森林施業を行う際の原則としても生物多様性保全等が掲げられています。これらの基本的な原則を念頭におき、試験研究機関や島外苗木生産者等からの意見を踏まえ、昨年11月から「スギ挿し木コンテナ育苗試験」を実施しています。この様な中、「屋久島地杉苗（コンテナ苗）育苗に関する現地検討会」をハサ嶽国有林69林班及び当センター内などで開催しました。

この検討会は、屋久島地杉の挿し木によるコンテナ育苗技術の向上を図ることを目的に、林木育種センター九州育種場の栗田育種研究室長、大塚育種技術専門役と九州大学の渡辺准教授の3人を講師に、屋久島森林管理署、鹿児島県、屋久島町、当センター職員及び昨年10月に設立された屋久島地杉苗木生産協議会の民有林関係者の29人が参加しました。

25日には、鹿児島県が管理するスギ採種林において現況確認と今後の取扱等について指導を受けるとともに、苗木生産協議会会員の苗畑予定地において苗畑造成の留意点等について指導を受けました。その後ハサ嶽国有林に移動して、奥村生態系管理指導官より昨年11月から開始した育苗試験の現在までの状況について、大塚育種技術専門役から採穂の留意点や採穂台木の仕立て方と管理についての説明を受けたのち、9班に分かれて実際に採穂の実習を行い、9本の台木から約100本の穂木を採りました。

26日にはテレビ放送の取材を受ける中、当センター内において参加者全員でコンテナ苗の培地

作製、挿し穂づくり、挿し木の实技等を行い最後に意見交換を行いました。各参加者からは、初めての挿し木コンテナ苗育苗作業の経験であり「非常に勉強になった」「これからの育苗に活かしたい」等々の感想が聞かれ、実践的かつ有意義な現地検討会となりました。



開会の様子



挿穂する時の注意点



荒穂から挿し穂へ



挿し木の体験

一枚の葉っぱから自然を知る (5月16日)

当センターは、屋久島町立小瀬田小学校において4年生7名を対象に、森林教室を行いました。

今回は、「葉っぱを通して屋久島の自然を知ろう」をテーマに、屋久島の気候、ヤクシカやヤクスギなど動植物、そして樹木の葉っぱの形や着き方などを説明後、校内散策を行いました。

児童達は、「自分の好きな葉っぱを探そう」と散策する中で、大きな葉っぱや綺麗な葉っぱなど思い思いに各児童が一番好きな葉っぱを持ち寄り、好きな理由などを発表しました。

最後に、古市所長から「小瀬田小学校葉っぱ探検隊隊員証」を各児童に手渡し、「これからも屋久島の自然を知って、友達や家族に教えてください」と述べ、終了しました。

今回の森林教室では、校内の身近な植物を通し、児童からは「ハマビワの葉の模様が、メロンの模様と同じ」など子供の視点による自然観やツマベニチョウの食草となるギョボクに幼虫を見つけるなど、改めて児童達に屋久島の自然を理解させるものとなりました。



好きな葉っぱを探して散策中

三者でモーターカー講習会 (5月11日、14日)

屋久島森林管理署では、昨年8月に熊毛地区消防組合及び屋久島警察署の三者で「山岳遭難事故発生時の救助捜索活動に関する協定」を締結し、森林管理署が対応できない場合でもモーターカーを警察・消防に貸し出して迅速な救助を行えるようにしています。GW期間中にも事故が発生し、傷病者搬送のため2回出動し迅速な対応が出来ており、関係機関から感謝されました。



実技講習の様子

このような中、本年度も協定に基づき熊毛地区消防組合の屋久島北・南分遣所の職員4人と管理署職員4人を対象にして、モーターカーの運転に係る講習会を開催しました。講習会は、学科講習と森林軌道でモーターカーの実技講習を実施し認定審査を行い、後日受講者全員に森林軌道運転認定証の交付を行いました。

引き続き山岳遭難事故発生時に関係機関と連携・協力して、地域貢献できるように取り組む考えです。

森林軌道跡など林業遺産を踏査 (5月22日)

昨年5月に日本森林学会より林業遺産「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」として認定されました。

本年度の現地調査等を開始するに当たり、屋久島森林管理署や関係者等18人が参加して林業遺産に関する情報共有や対応方針等を検討するため、国立歴史民俗博物館の柴崎准教授と鹿児島大学の奥山助教の指導を受け、黒味国有林内で現地検討会が開催されました。



現地検討会の状況

川畑屋久島森林管理署長からこれまでの経過や現在検討中の林業遺産の保全管理方針案等について、草野栗生森林官より現地概況について、柴崎准教授から林業遺産全般についての説明を受けるとともに、森林軌道跡の踏査を行いました。

屋久島森林管理署としては、今後とも関係機関や研究者と連携しながら認定された林業遺産を適切に保全して、後生にその価値が受け継がれていくように努めていく考えです。

ヤクシマママコナの話 (第3回)

—— 特殊な花の生態 ——

長谷川匡弘 (大阪市立自然史博物館)

これまで2回にわたりヤクシマママコナの話をしました。1回目では、ヤクシマママコナはシコクママコナと「ちょっと」ちがうから、その変種とされていること、特に花の長さが短いことをお話ししました。2回目では、その花に来る昆虫はシコクママコナとは「すごく」異なり、ハナアブの仲間やコハナバチ科のハナバチが訪れ、花粉をなめていたり、集めていたりしていた、という話をしました。

2013年から2015年にかけて、ヤクシマママコナの花に来る昆虫の調査をしましたが、その時に妙なことに気づきました。蜜を吸いに来る昆虫がいないのです。他のママコナでは、花の正面から頭や体を入れて、その奥にある蜜を吸っていくマルハナバチや他のハナバチ、チョウ類、ガ類などの昆虫が必ず来ます。このほか、ヤクシマママコナと同様に花粉をなめに来るハナアブ類も、わずかですが来ます。ところがヤクシマママコナでは、小さいハナアブは多く花を訪れていますが、花の奥に入ってもしくは口吻を入れて蜜を吸っていくようなチョウ、蛾類、ハナバチ類がまったくと言っていいほど来ないのです。屋久島高地にこのような昆虫類はいるのにもかかわらず、です。

最後の観察をした2015年にふと、蜜量を計測してみよう、と思い立ちました。蜜の量は、花の奥の蜜腺付近に細いガラス管を差し込み、蜜を吸い取って計測します(図1)。シコクママコナではこのような方法で計測すると、1花あたり0.2~0.3 μ lほどの蜜が採取できます。ヤクシマママコナではどうでしょうか？

新しく咲きそうなつぼみを持つ株にネットをかけて、花が咲いた日に、上記の方法で蜜を採取してみました。すると、蜜が採取できないのです。何かのミスかと思って、いくつも花を計測しましたが、やはり蜜はとれません。どうやら、ヤクシマママコナは蜜をほとんど出していないようです。花に来る昆虫が、花粉を求めてくるものばかりになるのも納得できました。

シコクママコナの「ちょっと」変わった変種とされるヤクシマママコナですが、その花について色々調べていくと「すごく」違った生態を持っていることが分かりました。ヤクシマママコナは、標高が高いところでは今でも普通に見ることができます。でも、このママコナは、屋久島高地という特殊な環境の中で、ハナアブなどの花粉を利用する昆虫に送粉を依存するように進化した、特別な植物だったのです。(おわり)

謝辞：本研究を進めるにあたり、矢原徹一氏(九州大学)、斉藤俊浩氏、手塚賢至氏には様々な面でお世話になりました。また、本研究の一部はJSPS科研費24770085及び、屋久島生物多様性保全研究活動奨励事業の助成を受けたものです。



図1: 蜜量は花に細いガラス管を差し込んで計測する。



屋久島の植物 オオヤマレンゲ(モクレン科)

関東以西に分布、屋久島を南限とする落葉小高木。屋久島では山地の尾根近くで稀に見られる。

葉はモクレンより円みを帯びている。花期は6~7月、葉が展開した後に開花する。花被片は白く、モクレンやオガタマノキより円みがある。

屋久島生態系モニタリング



屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

●標高400m^標プロット（愛子岳東側斜面）

林齢164年生の天然林。50～60年前までは薪炭利用されていた二次林であるので、胸高直径が50cmを超える大径木は稀でアカガシとタブノキが1本ずつ見られるのみ。急な登坂登山道沿いに該当し、プロット内には部分的に45度を超えるような急斜面がある。

[優占種の変化]

階層区分	2001年	2006年	2011年	2016年
高木層(7.0m以上)	イスノキ	イスノキ	イスノキ	イスノキ
亜高木層(3.0～7.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2～3.0m)	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	サクラツツジ	タイミンタチバナ
草本層(1.2m未満)	イヌガシ	ヤクシマアジサイ	ヨゴレイタチシダ	ヨゴレイタチシダ



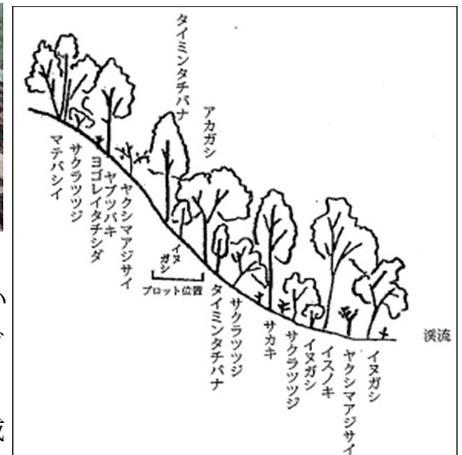
標高400m^標プロットの林相

[概要]

- イスノキ・サクラツツジ群集。サクラツツジの個体数が特に亜高木層で多いこと、高木層から低木層にかけてコバンモチが出現すること、スジヒツバが出現すること等がこの林分の特徴である。
- 尾根側には、マテバシイやヤブツバキ・ヤマザクラの高木が生育し、サクラツツジが多い。登山道沿いには、ユミネシダが多く見られるが一箇所落雷跡地に斑状に繁茂している。ユミネシダはヤクシカの嗜好性が低い。前々回に確認されていたアリドオシラン、マルバフユイチゴは今回見られなかった。
- ヤクシマアジサイの多くに食痕が見られたが、5年前に比べると程度が軽減されていた。マテバシイ等の実生は食害を受けずに残っていた。



ヤクシマアジサイ食痕



群落縦断面図

皆様が充分楽しめるように！

— GW期間の縄文杉周辺マナー指導 — （4月28日～5月5日）

林野庁・屋久島町・環境省・鹿児島県・屋久島観光協会・屋久島環境文化財団等で構成されている、「屋久島山岳部保全利用協議会」では、GW期間中の縄文杉周辺のマナー指導を例年行っています。

当センターと屋久島森林管理署は、4月29日と5月5日を受け持ち、北デッキ周辺の混雑防止のため、登山客の方々へ呼びかけや誘導等を行いました。

今年度の指導期間中の縄文杉登山者数は約3,600人の利用がありました。超混雑日と予想されていた5月4日は、約760人にのぼり毎年多くの登山客が集中しています。また、500人以上の日も数日ありました。



観光客で賑わう縄文杉デッキ

マナー指導期間中においても、骨折等の怪我により救助隊の緊急出動が発生していますので、登山される方々は十分な準備と体調管理を行い安全に登山しましょう。